

## ガウラ スパークル

学名: *G. x lindheimeri*

種子粒数の目安: 65 - 85 粒/グラム

開花に関する重要な特性:

- 初年開花が可能なペレニアル品種
- 日長反応について: 長日開花の特性を有するので、13 時間以上の条件で最も早くまた揃って開花する
- 低温処理の有無: 低温処理(バーナリゼーション)は不要だが、最低 6 週間、低温処理をすることで開花が早まる効果がある
- 開花時期:
  - 年初(1 月頃)播種による春生産では、温度条件にもよるが 5 月から 6 月中旬に開花
  - 夏期(7 月-9 月初旬)の播種による越冬生産では、翌年の 5 月中旬から下旬に開花する

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、また培地の初期養分は中庸(0.75mmhos/cm)とする

#### 播種

288 穴トレイに 1 粒播きをする。パーミキュライト等で覆土する

ステージ 1 - 播種には 5、6 日を要する

地温: 18 から 20℃

光条件: 不要である

水分: ステージ1での水分レベルは適度に湿潤(level 4)した状態を維持する

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度を 95%+で維持する

#### ステージ 2

地温: 19 から 21℃

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを下げ、適度な湿潤(level 4)から標準(level 3)の範囲で培地中の根の生長を促す

肥料: レート1(100ppm(N)以下、ECを0.7mS/cm以下の濃度で、リン酸の低い硝酸態の肥料を与える

#### ステージ 3

地温: 18 から 19℃

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: かん水の間に培地の表面が明るい茶色に乾くような、適度な乾燥(level 2)を維持する。状況を見ながら、level 2 から level 4 の範囲で適度な乾燥と湿潤を繰り返しながら管理を続ける

肥料: 肥料の濃度をレート2(100-175ppm(N)、EC値0.7-1.2mS/cm(1:2))に上げる。生長が遅いようであれば、株の動きを見ながらアンモニア態と硝酸態をバランスよく交互に与える。培地は、pHを5.8から6.2、またECを1.0-1.5mS/cm(2:1))で維持する

PGR(矮化剤): 矮化剤は概ね不要である

#### ステージ 4

温度: 15 から 18℃

光条件: 温度が管理できるのであれば、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ3と同様

肥料: ステージ3と同様

※ ガウラの種子は典型的な小堅果で、最大で4粒の種子を含むこともあり、通常の苗よりも大きく育つと考えられる

### 鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

10 から 15cm: 1 株移植/ポット

15 から 18cm: 1 株移植/ポット

#### 培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、また初期養分は中庸(EC、0.75mmhos/cm)とする

越冬生産を行う場合は、排水のよいバークを主体とした培地を使用することが望ましい。根が乾かない状態が続くと根腐病などの原因となる

#### 温度

昼間温度: 15 から 21℃

夜間温度: 10 から 18℃

※ ガウラは、低温条件(霜が降りないのであれば無蓋ハウスや通常のビニールハウス)でも生育を休まない植物であるが、生育速度は遅くなると考えられる

## 照度

適正な温度域で管理されている限り、できるだけ高い日積算光量(DLI  $\geq$  15 mol)を維持する。日積算光量(DLI: Daily Light Integral)の測定は光量計等を使用しましょう。

## 日長時間との関係

ガウラ・スパークルは条件的長日植物であり、13時間以上の日長条件下では早くまた揃って開花する。

## かん水

やや乾燥気味に管理するが、極度な乾燥によって枯らせないように注意する。

## 肥料

リン酸分が少なくカリウムの割合が多い、硝酸態の肥料を用いながら、レート 3(175-225ppm(N)、EC は1.2-1.5mS/cm)の肥料を与える。pH を 5.8 から 6.2、また EC を 1.5 から 2.0 mS/cm に維持する。

※ 75-100ppm (N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm の肥料を多頻度で方法も可能であるが、その場合も上記の pH と EC の範囲を維持する。

## PGR(矮化剤)

ガウラ・スパークルは、B ナイン(2,500ppm)とサイコセル(750-1,000ppm)のタンクミックスに反応することが確認されている。必要に応じて、繰り返し散布する

※ 温度の低い条件では、B ナイン(2,500ppm)による単一アプリケーションも可能であるが、散布頻度は増す。

## ピンチ

ピンチは不要である。

## スペーシング

密に寄せたベンチ生産が可能。

## 平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 から 6 週

移植から開花まで(一年生の作型):

コンテナサイズ	移植本数	温暖期の生産(20°C)	冷涼期の生産(13°C)
10.5 から 13cm または 15cm	1 本植え	7 から 8 週	11 から 13 週
15 から 18cm	1 本植え	8 から 9 週	12 から 14 週

**年初播種(春生産):** 1月播種の場合、温度条件にもよるが5月上旬から6月上旬に開花する。

**夏季播種(越冬生産):** 7月から9月上旬の播種では、5月中旬から下旬に自然開花する。

※ 越冬の作型では左記の春生産と比較して、基本的な条件が同じであれば、実際の開花時期が1、2週早く、丈が3分の1ほど高く、株もより旺盛に繁茂する。

## 病例等

**害虫:** アブラムシなどからの防除が必要

**病気:** とくに報告例はなし

## 花壇定植や造園用途について

- ガウラ・スパークルは、USDA 耐寒性指標 Zone5b から 9 の条件で、初年開花する宿根品種である。特別な低温処理(バーナリゼーション)は不要。
- 降霜の懸念がなくなってから、日あたりの良い場所あるいは適宜日のあたる場所に定植する。
- 水はけのよい土に、30 から 38cm の株間で植える。
- しっかりと根付いた後は、ガウラ・スパークルは乾燥にとても強くなります。
- 冬に雨の多い土地や温度変化の激しい条件では、越冬期のガウラに良くない影響をもたらす、病気にかかりやすくなるので注意が必要です。
- 定植後の草丈は 50 から 75cm、株の直径は 30 から 50cm です。

## 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう